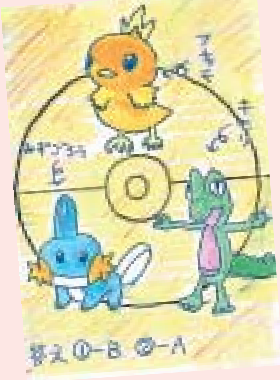
中花　成くん（白井・6歳）

藤嶋　悠子さん（緑区・12歳）

下坪　夏南さん（黒崎・8歳）

源田　晴菜さん（中央区・8歳）



藤島　晶さん（白井・11歳）

松家　菜さん（堀内・9歳）

はがきの余白に意見、情報、イラストなどカラーで自由に書いてください。紙上で紹介します。方言クイズもおよせください。お待ちしています。

◆**あて先**…〒028―8392普代村9―13―2普代村役場総務課広報クイズ係

◆**締め切り**…二月三日（月）

◆**十二月号の答え**…

①―A　②―A（=**おわび**=「広報ふだい」十二月号、①の問題ですが「トマリさ」という書き出しで始まって、答えが「大晦日」になっています。「トストリさ」で始まる問題でした。皆さん！　本当にごめんなさい。校正ミスです。おわびして訂正します）

◆**応募総数**…十九通で十一人の方が正解でした。次の七人に図書券を送ります。

◆**当選者**…①畠山雄奨くん（盛岡市・8歳）②畠山彩愛さん（盛岡市・10歳）③金子達哉くん（黒崎・12歳）④外舘ゆきかさん（中央区・9歳）⑤源田結佳さん（中央区・17歳）⑥下道崚聖くん（上区・9歳）⑦中村郁美ちゃん（上区・5歳）

☆小学校高学年の部

「白い森のふるさと」を読んで

鳥茂渡小学校六年　坂下　雄洋くん

ぼくがこの本を読むきっかけとなったのは、この本に出てくる森がぼくの住む岩手県の山形村にある平庭高原の森だったからです。ぼくは、よく父とこの平庭高原に行きます。行く途中の車の中で父から山形村のことを聞いたことがあります。牛がいっぱいいることや炭焼きがとてもさかんなことなど。そんなこともありこの本にとても興味を持ちました。

この物語の主人公「明」は、たまたま、ひき逃げされた焼き芋屋さんのおじいさんを助けたことで、おじいさんのふるさとの山方村に来た明は、目の前にする人々や動物、そして生活にとても驚かされたり、たのしませられたりしました。

川でのつりや炭焼きの体験を通してこのふるさとを全身で発見することができました。

ぼくも山に囲まれた所に住んでいます。山方村と同じように自然にあふれています。明が山方村にきてそのすばらしさを発見してくれてとてもうれしい気持ちになりました。なんだかぼくのふるさとをほめられているようにも思えました。ぼくは、明の住む東京には一度も行ったことがありません。テレビや新聞などで少しはその様子が分かりますが、ぼくの住む岩手よりは自然が少ないと思います。空気にしても、そのにおいは、違うのではないかと思います。明が山方村で生活していく中で、そのちがいやよさを発見してくれたような気がします。

明が発見したものにもうひとつ大切なことがありました。それは、山方村に住む人々についてです。昔から伝わるものを作ったり、昔からある建物などを大切に守ったりする姿を発見したのです。

ぼくが住む普代村でも昔から伝わる御神楽を大切にしています。そしてぼくもこの御神楽を練習してきました。暑い夏の練習のときは、途中で投げ出したくなるときもありましたが、六年間やってきたおかげで自信をもって舞うことができるようになりました。

古くからあるものを絶やさずに伝えていくということは、決して簡単なことではないと思います。そこに住む人々のふるさとへの強い思いや願いがあるような気がします。

ぼくは、いつまでも伝えて生きたいものがもう一つあります。それは、ぼくの学校で五年前から行ってきた、「アルミ缶を集めて車椅子（いす）をおくる活動」です。村の人々など、地域の方々の協力を受けながら今までに五台の車椅子を老人福祉施設におくることができました。この活動をいつまでも継続していけたらなと思っています。

ぼくはこの物語を読んで、ふるさとを大切にしていく勇気がわいてきました。山方村と同じような環境にある自分の住むふるさとを自分なりに自分ができるやり方で精一杯がんばって大切にしていきたいと思います。

=原文のまま=（※雄洋くんは現在普代中一年に進級しています）